

(1) 学校経営の改革方針における今年度の重点取組についての評価結果

項目	行動計画の目標・評価方法	達成状況・評価結果	具体的取組に関する成果や課題
学習指導	<p>中長期重点取組の1 総合学科の特性を生かしたきめ細かい学習指導を行い、学習習慣の確立と学力の向上に向けて取り組めます。</p> <p>(1) 学習習慣の確立と学習意欲の向上を図る。 ・授業規律の確立と定期考査等にむけての計画的指導 ・提出物の期限厳守の徹底などにより家庭学習の習慣化を図る。 ・課外授業、補習と面談の充実、模試活用。</p> <p>(2) 「産業社会と人間」「IVYタイム」におけるキャリア教育を通じた進路希望の実現</p> <p>(3) 検定や資格取得の奨励を図る。</p> <p>(4) 教員の資質向上と授業内容の改善を図る。 ・教材開発や教員間の授業研究の充実</p> <p>(5) 進路情報の提供。生徒・保護者との連携。</p> <p>(6) 進学指導体制を充実し、国公立大学受験のべ15人以上、合格10名以上を目指す。</p> <p>(7) 学校推薦就職内定率100%を目指す。</p> <p>(8) 学習の場として図書館の有効利用を図る。 年間貸出数(5000冊以上) ・調べ学習の場としての活用</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業規律はほぼ確立できている。 ・学力伸長のため、上位層・下位層の引き上げを重点的に行うため、各教科の取組を全体に共有した。進路選択のためのブロック表を見直した。 ・家庭学習の習慣化のため、各教科の宿題・提出物の徹底を図った。 ・特進塾2年目。2年次はやや減少傾向にあるため、生徒への声掛けをし充実させていく。1年次は教科により受講人数は違うが、25名前後の生徒が受講しており継続して指導する。3年次は12月からセンター対策講座を実施し、効果があった。 ・資格取得合格者数はほぼ横ばい。 ・授業公開週間の保護者の参加が少ない。教員間の授業公開2回実施したが授業研究はできなかった。 ・進路ガイダンス、分野別説明会、進路希望別保護者会(3年次3回、2年次2回)等を実施した。就職1次試験合格率90%であった。基礎学力の向上、面接・集団討論指導の充実等が今後の課題。 ・大学合格 99名(国公立受験予定5名)短大29名、高等看護9名、専門学校等59名。センター試験受験者75名(昨年77名)。 ・学校推薦就職希望91名(内定名、受験待機3名) ・公務員合格 6名 ・授業での図書館利用定着化。図書館利用者は増加したが、貸出冊数は減少。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習意欲の向上と家庭学習、特に学習内容の定着が課題。学力差が大きく、上位層の引き上げ、基礎学力の定着していない生徒への支援が必要。 ・IVYタイムでは、研究成果のポスター発表をさせ、プレゼンテーション力の育成に努めた。 ・部活動と学習の両立を目指す指導がさらに必要。 ・「産業社会と人間」の生徒アンケートでは「科目登録」について満足度が低くなっており、在り方について検討が必要。 ・進路指導部を中心とした組織的な進学指導体制を進めた。さらに年次・教科と連携し、3年間継続した進学体制を充実させ、実績をあげていくことが必要。 ・学校推薦就職1次合格者の割合が向上。2年次からの就職対策、面接指導、希望者別のガイダンス等による成果。 ・生徒の進路希望や学力に合わせた積極的な取り組みを学校全体として徹底する必要がある。 ・図書館利用の活性化に向け更なる取組が必要。

生徒指導	<p>中長期重点取組の2 基本的な生活習慣や規範意識の確立を図ります。 (1) 全職員で基本的な生活習慣の指導を行う。 ・ 服装頭髪指導、昇降口指導・校門指導・登校指導、登下校自転車安全指導、年次連携</p> <p>(2) 年3回の人権学習を通じて人権意識を高め、自主自律の精神を育てる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全校集会での講話、「生指だより」、昇降口指導等により、学年と連携を継続して取り組んだ。 ・ 基本的な生活習慣についてはおおむね良好。規範意識の指導については根気強く指導。毎月の頭髪服装指導・マナー等の全職員による指導を行った。 ・ 9月に実施した「いじめアンケート」では、年次・部顧問と連携し適切に対応。2月にも学校生活調査を実施し個々の生徒の状況を把握し適切に対応。 ・ 学校だけで対応が難しい事案については、スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーなどの専門家の活用を進め、必要に応じて関係者の会議を開いて対応した。 ・ 人権問題を自分の問題としてとらえ、差別に負けない・差別を許さない生き方を考えるとともに自律し発信できる力を育てる。 人権学習(第2回は授業を公開) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 頭髪服装指導とものを大切にすることの心の指導強める。挨拶については、自然に挨拶ができるところまでは至っていないが、雰囲気作りは徐々にできている。 ・ 登校途中の生徒が交通事故で死亡した。全校集会での講話・朝の登校指導、PTAや警察とも連携して交通安全指導を徹底する。 ・ 学年主任と生徒指導主任との定期的な連絡会議は持てなかった。定期的な会議の開催、生徒指導委員会での情報共有や対策の検討などに取り組む。 ・ 生徒指導部・特別支援・教育相談との連携・協力を進めることができた。専門家の効果的な活用を図る。 ・ 問題行動後の指導に効果が出ている。 ・ 人権学習に生徒はよく取り組んでいる。
特別活動	<p>中長期重点取組の3 部活動・生徒会活動の一層の活性化、健康教育、心の教育の充実を図ります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校行事や部活動の活性化 ・ 保健だより、文化祭での展示で啓発する。 ・ 環境美化を推進する。 ・ 生徒の自主性・自治能力を高める。 ・ 保健部と教育相談が連携し心の相談に対応する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ レスリング・体操部がインターハイに出場、レスリングが国体に、野球・女子バスケットボール・陸上・体操・水泳・剣道・ゴルフが東海大会に出場するなど、多くの部活動が好成績を残した。県総体女子総合2位、男子4位。 ・ 体育大会、文化祭実行委員を組織し、生徒会役員だけではなく組織的・機能的に行うことができた。生徒会を中心に率先した取り組みを行い、例年より服装違反等が少なくなった。 ・ 保健通信を毎月発行し、HPにも掲載し、保護者への啓発を行った。文化祭で保健環境委員が積極的に取り組み展示発表をした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校行事の活性化を一層図ることが必要。特別活動委員会を中心に検討を進める。 ・ ゴミの分別についてさらに啓蒙活動を充実させる。 ・ 保健部、教育相談、生徒指導部が連携し、生徒の心の悩みの相談に対応できるよう、教員研修、ケース会議の開催を進める。

開かれた学校づくり	<p>中長期重点取組の4 保護者や地域との信頼関係の構築を図り、開かれた学校を目指します。</p> <p>(1)保護者・地域へ情報発信を積極的に行う。 ・学校公開、HPの充実 ・メール配信保護者登録率の向上</p> <p>(2)地域貢献・地域開放の推進を図る。 ・公開講座『学びのプラザ』の充実。</p> <p>(3)セキュリティと情報管理の強化を図る。</p> <p>(4)学校周辺の校外清掃を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・中学生対象学校公開夏と秋実施 夏の学校見学会・生徒(791名)・保護者(178名)計969名の参加。 秋の学校説明会・生徒347名・保護者59名の参加。参加者の満足度高(夏季の場合90%以上) ・絆ネット登録率・保護者98%、生徒の登録率が減少しつつあり、台風前に再度登録を呼びかけた。毎月学校行事連絡と緊急時の連絡実施。 ・3月にHPのリニューアルを予定している。 ・地域開放講座『学びのプラザ』は「エクセル入門」「ハードウオチング」「篆刻」「和洋菓子」を開講。受講者は増加。 ・9月に3年、12月に1年、3月に2年が校外清掃を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校紹介パンフレット『IVY通信』を通して、本校の特徴や状況、前期選抜の実施方法などが周知できた。 ・絆ネット(メール配信)で、緊急時の連絡体制整備。今後更なる生徒の登録率の向上と定期的な情報発信が課題。 ・中学生への学校説明会は、夏季(1日2回実施)と秋(公開授業)の継続。 ・進路別・学年別の保護者説明会については、出席率も高く、今後も継続して実施。 ・地域開放講座は、地域への広報が課題。保護者へも広報して募集。 ・各学年毎の生徒全員による校外清掃を今後も実施。
学校経営品質等	<p>中長期重点取組の5 学校組織の改善と組織力の向上を図ります。</p> <p>(1)危機対応の強化と安心・安全な学校づくりを図る。 ・防災体制の強化 ・情報管理の強化</p> <p>(2)働きやすい職場づくりを図る。 校内分掌等の連携と情報交換、情報収集</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急時の防災体制等を見直し、HRにて避難訓練及び防災教育年間2回実施。 ・校内備蓄(食糧・水)を整備した。 ・ネットワーク上の大きなトラブルなく安定稼働できた。昨年校務メニューに代わる新システムを導入した本年度は概ね順調に運用できた。 ・各種校内研修会とその他オフサイトミーティング実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災体制の強化と各種訓練の取り組みが重要。生徒・職員の意識改革も不可欠。 ・県の「総合認証システム」等新たな対応が課題。 ・校内研修への参加率の向上が課題。校内研修のテーマ・日程等、充実への検討が必要。 ・保護者アンケート・生徒満足度調査・教職員満足度調査の結果から課題の洗い出しと改善にむけた具体的な方策の検討。 ・関係部が情報交換や意見の調整、連絡を密にして進めたが、一層の情報共有、連絡の徹底など連携を進めていく。 ・会議資料の事前配布による会議時間の短縮に努めた。さらに進めることが必要。

(2)組織の状態の評価結果

アセスメントから明らかになった状況	
強 み	<ul style="list-style-type: none">・北勢地区唯一の総合学科高校として、総合学科の特色を生かし、多様な進路希望をもつ生徒に対して、進学・就職それぞれ多くの進路情報を伝え、多様な進路選択を可能にしている。・生徒及び保護者アンケートによると、本校の恵まれた施設・設備に最も魅力を感じており、続いて部活動・自由な雰囲気・資格取得となっている。・「学校へ行くのが楽しみ」「この学校へ来てよかった」「友人から良い刺激を受ける」と回答した生徒が8割を超えており、子ども同士の関係の良さ、基本的な生活習慣が身についている生徒が多いこと、授業規律があることが本校の魅力である。・校内における情報設備が整っており、ネットワークを利用した高度な学校運営が可能である。
弱 み	<ul style="list-style-type: none">・進学・就職ともに進路実現に向けて、個々の生徒の能力の引き上げが課題である。データに基づく学力の実態把握ができていない。学力の実態把握に基づく効果的な対策の検討が必要である。・新校務システムの情報ネットワークの維持・補修、改善が行いにくい状況をできるだけ早く改善する方向に持っていかなければならない。・保護者や地域に向けての情報発信が十分にできていない。学校の教育活動の理解や支援を得るためにも、積極的な発信が必要である。

(3)学校関係者評価委員会の実施状況

学校関係者評価委員会の実施内容等	
<実施回数> 3回	
実施内容	<p>第1回(6月24日)・・・学校の概要について、昨年度の評価委員会評価結果と今年度の学校経営の改革方針について、人権教育推進計画について、教職員との意見交換、授業見学</p> <p>第2回(11月12日)・・・人権学習(1~3年)授業見学、学校経営の改革方針今年度の重点取組の中間報告、保護者アンケート結果報告 生徒会役員との意見交換</p> <p>第3回(2月23日)・・・生徒・教職員アンケート調査結果報告、今年度の取組の成果と課題について、学校関係者評価委員による評価</p>

(4) 学校関係者による評価結果

学校関係者評価から明らかになった改善課題	
関係者評価	<ul style="list-style-type: none">・ 服務規律の徹底、職場でのセクハラはゼロを目指さなければいけない。学校への信頼を揺るがしかねない問題であり、学習・研修に取り組んでほしい。仕事は協働性が大切である。・ 学力の実態把握を行い、どこまで上げていくのかという目標をもって対策をたて取り組むことが必要である。幅広い学力の生徒がいるので対象の絞り込みが必要である。・ 評価項目が多岐にわたるため論点が定まらない。例えば、授業に特化して、参観上の視点（グループワークの進め方、授業の工夫等）を設定して、年度初め→中間→まとめと実際に目で見たうえでそれらの伸長について話し合えるものが一つあるとよいのではないか。・ 人との協調性、人・仲間を大事にすること、親を大事にすることなど「人間としての尊厳」「道徳」教育の大切さ、高校生活で学習活動・部活動で、多くの仲間と接し、雑草のごとく揉まれることも必要だと思う。欠席をしない、挨拶をする等、基本的な事を身につけさせることが大事。・ 特色ある取組のいい流れをつくってもらっている。子どもたちが自信を持って語れるようにしてほしい。生徒が活躍できる場づくりを進めることが必要である。・ 社会の中で失敗した時、自ら道を切り拓いていける力の育成が何よりも必要。従って今後も学習活動と部活動の両立が大切。部活動では、生徒自身がゆとりを持って互いの活動をふりかえながら共に高みを目指して自律していくことができる指導方法が望まれる。・ 生徒会と学校関係者評価委員との話し合いはよかった。PTA 役員と生徒会役員との意見交換をやりたい。

(5) 組織力向上のための取組(改善策)

次年度に向けた取組
<ul style="list-style-type: none">・ 組織力向上の根底は、教職員間の信頼関係の基に同じベクトルを目指すことにある。小さなほころびや不満、あるいはルールの不統一などの修正はその都度必要である。「生徒にさせたいことは自分たちもする」という意志のもとにできる限り方向の一致点を目指す。・ 研修については、教科指導も専門的になるため、共通事項として、グループワークの活用や討論の活性化、あるいはルールとリレーションの育成といった教科枠を超えた内容に設定していくことも一つの方法。・ 分掌について不平等感や固定感が見られる。固定化することでその人の専門性を定着させることにもつながり必ずしも固定化がマイナスとはいえない。仕事の充実感を大切である・ 進路指導部を中心とした組織的な進学指導体制を構築することができた。さらに年次・教科と連携し、3年間を見通した継続した進学体制を充実させ、実績をあげていくことが必要である。・ 分掌や年次間の連携をより密に行い、学校運営の円滑化を図る。学年主任と生徒指導部・管理職との情報交換のための会議を定期的に行う。・ 学習の場において、常に自己を見つめさせ、絶えず向上心の育成を図る。特に、学力の伸長を目指して、上位層・下位層の引き上げを重点的に行う。また、教職員間の情報の共有化を図り、生徒の進路希望のさらなる実現を図る。・ 処務規定や業務内容のマニュアルにもとづき、分掌内での連携やスムーズな引継ぎを行い、業務の効率化・質的に効果の高い運用ができるようする。・ 学校のあらゆる教育活動に対して、保護者や地域からより一層の協力と支援が得られるよう、幅広い情報発信力の向上に努める。

